

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 33号

2013/01/21 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き： 徐々に上昇中、今週ロンドンではクリスマス前の1500£台に戻るか？

①週最高：LDN市場£1,489 / NY市場\$2,300 (共に1月17日) 先週比 **LDN+47/NY+\$33**

②週最低：LDN市場£1,451 / NY市場\$2,256 (1/14、1/16) 先週比 **LDN+£30/NY+41**

週内差額 (①-②)：LDN市場£38 / NY市場44

【1月14日 (月)】 ニューヨーク、ロンドン両市場とも反発
ニューヨーク市場は反発し、3月きりは11ドル (0.5%) 高の2267ドルで終了。ロンドン市場も反発し、3月きりは13ポンド高の**1451ポンド**、5月きりは9ポンド (0.6%) 高の1454ポンドで引けた。

【1月15日 (火)】 両市場とも小動きの取引。
レンジ取引の中を小動きとなった。
欧州の2012年第4四半期の圧砕高は6.2%と、予想 (6~10%減) 通り低調さだった。マレーシアの第4四半期の圧砕高は3.6%増、ブラジルの12年の圧砕高は過去最高だった。
ニューヨーク市場の3月きりは4ドル (0.2%) 高の2270ドル、ロンドン市場の3月きりは4ポンド高の1455ポンド、5月きりは4ポンド (0.3%) 高の1458ポンドでそれぞれ引けた。

【1月16日 (水)】 両市場とも反落。
両市場とも反落。ニューヨーク市場の先物は、2営業日連続で前日の取引レンジ内の値動きとなった。
2012年第4四半期の欧州の圧砕高が予想通り、さえないほか、同期の北米圧砕高の発表を17日に控えていることが背景。予想では、前年同期比5%減~1%増とされている。
ラボバンクの上級ソフトコモディティ・アナリスト、キース・フラーリー氏は「ココア市場は弱気な統計に備えた状態で、これまで見られた下落基調は比較的緩やかだ」と話した。
ニューヨーク市場の3月きりは14ドル (0.6%) 安の1トン=**2256ドル**。ロンドン市場の3月は前日変わらずの1455ポンド、5月きりは1ポンド安の1457ポンドで引けた。5月きりの出来高は2066枚と薄商い。

スイスのチョコレート製品大手バリー・カレボーは、予想を下回る四半期収益を発表。世界的な供給過剰による価格下落が背景。

【1月17日（木）】両市場とも反発、ロンドン市場はポンド安が下支えに。

ロンドン市場は、対ドルでのポンド安が下支えとなり反発、5月きりは24ポンド（1.6%）高の1481ポンドで引けた。また3月当ぎりは、5月きりに対して8ポンドのプレミアムの1489ポンドで終了した。当ぎりが2番ぎりよりも高く引けるのは2012年12月10日以来。

アトランティック・キャピタル・アドバイザーズ（米ニュージャージー州）の主任トレーダー、ニック・ジェンタイル氏は「ロンドンでは認証在庫が4万トンしかなく、これが相場を押し上げる要因として利用されたと思う」と指摘した。一方、ニューヨーク市場も反発、3月きりは44ドル（2%）高の2300ドルで終了した。

【1月18日（金）】ロンドン横ばい、ニューヨークは反落。

ココア先物は、圧砕高統計を受けて上伸したものの、引けにかけて値を消す展開となった。

ロンドン市場の5月きりは1481ポンドと、前日と変わらずで引けた。一時は、2番ぎりとしては4週間ぶりの高値となる1490ポンドまで値を上げた。ロンドン1番ぎり3月きりは7ポンド下落し、1482ポンドで終了。

下落のニューヨーク市場の3月きりは、15ドル（0.7%）安の2285ドルと反落して終了した。一時は、1カ月ぶり高値の2313ドルまで上昇した。全米菓子協会（NCA）が17日発表した統計によると、2012年第4四半期における北米カカオ豆圧砕高は前年同期比0.95%増の12万0053トンだった。

市場予想は5%減から1%増で、予想レンジの上限に近い結果となった。ブローカーの1人は「相場の支援材料となったかもしれないが、再び売りに上値を押しさえられた」とし、生産者の売りに言及した。

2、ブラジル、12年のカカオ豆磨砕量、過去最高に（1/15）

ブラジルのココア業界団体が14日までにまとめた統計によると、2012年の同国カカオ豆磨砕量は24万5040トン（1袋60キロ＝408万3994袋）と、08年の23万2143トンを上回り、過去最高となった。同国の過去2年間のカカオ豆収穫は、作物の病害てんぐ巢病の拡散が好天で食い止められ、豊作が続いている。90年代前半はてんぐ巢病が収穫に深刻な被害をもたらし、ブラジルはカカオ豆生産国2位から6位へと後退した。

3、12年10～12月の欧州カカオ豆磨砕高、前年比6.2%減（1/15）

欧州ココア協会（ECA）は15日、2012年10～12月期の欧州カカオ豆磨砕高が前年同期比6.2%減の32万7982トンになったと発表した。

減少率は、アナリストとトレーダーによる予想（前年比4～10%減）に沿った内容だった。

12年4～6月期と7～9月期のカカオ豆磨砕高はそれぞれ前年同期比で15%超減少。圧砕マージン低下で磨砕業者は生産能力を引き下げ、在庫も縮小した。ECAは、欧州連合（EU）およびスイスの大半の圧砕業界を対象に四半期統計を実施している。

欧州の2012年1月-12月の全体での磨砕数量は前年対比10.3%の減少となった。

4、12年10-12月のドイツカカオ豆磨砕量18.73%減少(1/15)

ドイツのチョコレート業界団体によれば、12年10-12月のドイツ国内のカカオ磨砕数量は前年対比18.73%減少の93,701トンとなったと発表された。

また、2012年全体では16.55%減少の377,258トンであった。

ドイツは第3四半期の7-9月でも29.9%の減少と大きく減少していた。業界団体は、ドイツのカカオ磨砕数量の大幅な落ち込みについて何も発言をしなかった。

しかしながら『新しい年から中長期的にはカカオ磨砕数量に対する需要は上昇していく見込みである』とは発言した。

トレーダー筋の説明によれば、3つの世界的なカカオ、チョコレート企業がドイツ工場での磨砕数量を徴してしており、またドイツの大手磨砕業者が工場の時間短縮などをして生産調整を行っていたと説明した。『ドイツの国内の磨砕量の大きな落ち込みには、企業側の事情が背景として大いに関係している』

『世界的な企業は、様々な国に工場を所有する中で、他国よりもドイツの工場の磨砕数量を意図的に減らしていた。ドイツは、工場がある国の中で、操業のエネルギーコストと人件費が他国より高いからだ』別のトレーダーは説明する。

『ドイツのチョコレートの販売も弱いのが、これは全てが、欧州危機に起因するものではないだろう』彼はつづけた。ドイツの2012年1月-10月のチョコレート小売製品の販売数量は431,000トンで僅か1.4%の減少にとどまっており、販売金額では2.8%増加の36億ユーロ(≒4100億円)となっているからだ。

5、12年10月-12月のマレーシアカカオ豆磨砕数量、3.6%増加。

マレーシア・ココア委員会は15日、2012年10-12月期の同国のカカオ豆圧砕量が7万7016トンとなり、前年同期比3.6%増加したと発表した。12年通年の圧砕量は29万9525トンで、前年(29万9271トン)を若干上回った。マレーシアのカカオ豆圧砕量はアジアで最も多い。

6、ガーナのカカオ集荷数量は48万5,234トンに。昨年対比で18.9%減少のペース(1/16)

ガーナは今シーズンのカカオの買付け数量が1月3日までの時点で48万5,234トンとなり、昨年の同時期までと比較し、18.9%の減少となっていることが、ガーナココボードの発表で判明した。

10月12日に開始した今シーズンの12週目となる1週間での集荷数量は36,900トンで、その前週の26,749トンからは増加した。

ガーナは、現在世界第2位のカカオ生産国で今シーズンは前シーズンの約5%減少となる80万トンの収穫数量になるだろうと予測している。

7、アジア市況:バターレシオ1.9-2.0で高値継続、パウダーは高値と安値に極端な展開(1/18)

今週アジアの市場では、バレンタインデー及びイースターの需要を背景にした商いが行われた。アジア産ココアバターは、ロンドン先物市場価格に対して2009年の初旬以来の高い水準となる2.0レシオがオフアされたが、買い手が興味を持たず、先週と変わらず、1.90レシオ付近での取引がなされたとマレーシア、シンガポールのトレーダーより報告された。

ココアパウダーの方は、製造者、顧客により高値と安値が混在している状況が報告され、ある企業は、中東市場、台湾、フィリピン市場に\$4,000／トン前後での交渉をしている様子。一方で他の企業ではココアバターの高いレシオとは逆に、ココアパウダーは比較的安値の\$2800～\$3000／トンでオファーされている模様。但し、需要は強くなく、成立している取引は多くはない様子。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp